



平成 23 年 4 月 19 日
岡 山 大 学

作物生産に関するケニアとの国際共同研究プログラム

岡山大学資源植物科学研究所（植物研）では、全国共同研究拠点として「植物ストレス科学研究」を通じた作物の研究を進めています。拠点事業の一環として、日本学術振興会「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」により、平成 22 年度からケニアのジョモケニアツタ農工大学(JKUAT)との国際交流事業を行っています。日本（岡山大学）が持つ有用な作物や遺伝子リソース、作物栽培技術を生かし、東アフリカでの「次世代作物開発」を目指すため、平成 23 年度は JKUAT の大学院生・研究者 5 名が来日し、岡山から 3 名が先方へ派遣される予定です。

【プログラム】日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業

「東アフリカにおける作物ストレス科学研究ネットワーク拠点形成と次世代作物の開発利用」

日本側コーディネーター：岡山大学教授・山本洋子 期間：平成 22～24 年度

相手国側拠点機関：ケニア・ジョモケニアツタ農工大学

（参考ウェブ：<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/international/kenya/index-j.html>）

アフリカでは食糧不足が深刻化しつつあり、ケニアでは 2009 年 2 月にキバキ大統領が食糧不足の窮状を緊急発表しています。岡山大学は、1980 年代にジョモケニアツタ農工大学(JKUAT)の設立にも関わり、大学間交流協定による交流実績があります。これらの実績を基盤に、上記のプログラムでは、JKUAT における作物ストレス科学共同研究を進めるプラットフォーム作りを行うことになりました。植物研・農学部などが持つ世界有数の研究リソース・技術を用いて、不良環境を克服する「次世代作物」の開発利用をアフリカで目指すための技術習得を目指したケニア大学院生・若手研究者の受け入れが始まります。

【平成 23 年度の交流事業】

- ・ ケニア側研究者の受け入れ（5 名）
- ・ ケニア派遣（岡山大学、くらしき作陽大学教員計 3 名）
- ・ 国際シンポジウム開催（10 月、倉敷芸文館）

※参考

【平成 22 年度の交流実績】

- ・ ケニア側研究者受け入れ（2 名）
- ・ ケニア派遣（岡山から 8 名）
- ・ 国際シンポジウム開催（昨年 11 月、ケニア）



国際シンポジウムの開催
(昨年 11 月、JKUAT にて)



<お問い合わせ>

岡山大学 植物研・ケニア共同研究担当

・坂本 亘

（電話番号）086-434-1206

（FAX番号）086-434-1206

（Email）saka@rib.okayama-u.ac.jp